

名前：

私の友人は、この数年来新聞に触れてい
るらしい。彼曰く、「欲しい情報はWeb上
に揃っている」からそうだ。現在、新聞や
雑誌から入手できる情報より、遥かに多種多
様な情報が、Web上に溢れている。しかも、
世界中のニュースが即時に、そして無料バチ
に入る。新聞や雑誌が凋落の憂き目にあつ
たのは、已むをえないことかもしれない。
しかし、「新聞や雑誌はもう不要だ」と言
いきえることは可能だろうか。電子媒体上の情
報と、紙媒体上の情報は、果たして完全に同
一視されうるものなのだろうか。
「定期購読」という言葉がある。新聞や雑
誌の購入者のかなりの数は、定期購読者であ
ることは想像に難くない（ここでは、予約購
読者から、『自分の興味のある記事が載った
時のみ購入する』といった読者まで、つまり
ある紙媒体に他の媒体に比してより多くの頻
度で触れている者全てを、定期購読者と見な
す）。ところで、紙媒体は通常ある特定の営

利団体によって作られていることから、その
論調が激しく変動することは考えにくい。そ
れゆえ、定期購読者は、購読対象たる紙媒体
の論調と似かよった趣味を持つていることが
予想される。
これに対し、「関連するトピックをWeb
上から簡単に検索できる」という特性をもつ
電子媒体においては、ある特定のニュースサ
イトのみを閲覧する、という事態は、紙媒体
に較べて生じにくい。このように、「様々な
立場から社会を鳥瞰できる」ことは、たいて
び取り上げられてきた電子媒体の特性である。
以上のことから、紙媒体による情報収集は、
情報媒体におけるそれと比較して、読者によ
り固定的なペースペクティヴを提供する、と
結論づけられる。そして、両媒体と適宜使い
分けることにより、私達は固定的な視点と、
多角的な視点を共に保持しうる。このような
理由により、私は「これからも新聞や雑誌は
必要」であると考える。

1800字